

海外ネットワークに関する万国津梁会議  
最終報告(素案)

2021年〇月

(会議の円滑な進行のため、議論が比較的少ない内容にアンダーラインを挿入しています)

## I はじめに

1. 「海外ネットワーク」について p1
2. 世界のウチナーネットワークに関する取組 p1
  - (1) 世界のウチナンチュ大会
  - (2) 県による取組・事業
3. 世界のウチナーネットワークに関する課題 p2

## II 4つの課題にかかる分析

1. 課題の背景 p3
2. 課題の現状分析 p3

### (1) アンケート調査の実施

- a. 沖縄の文化継承に係る活動のこれまでの実施状況について(課題①関連)
- b. 世界のウチナンチュに関するイベント・活動実施状況について (課題②関連)
- c. 沖縄経済の自立的発展に向けたウチナーネットワークの寄与について(課題③関連)
- d. 海外のウチナンチュとの事業・ビジネス経験について(課題③関連)
- e. 世界のウチナンチュの拠点として必要な機能について(課題④関連)
- f. 本会議へ期待することについて
- g. 第7回世界のウチナンチュ大会の開催について

### (2) 現在進行中の取組・事業

【課題①(若者の参加低下・世代間ギャップ)関連】 p7

- a. #UCHINA1000
- b. 次世代ウチナーネットワーク継承基盤構築事業
- c. 移民の歴史啓発事業

【課題②(ウチナンチュの意識・アイデンティティの低下)関連】 p8

- a. World Uchinanchu Network (通称 WUN: Web サイト)
- b. #世界のウチナンチュ(#sekainouchinanchu)

【課題③ウチナーネットワークの有効活用】について)関連】

p9

- a. JICA 中小企業・SDGs ビジネス支援事業の活用
- b. WUB ネットワーク
- c. 県系移住地「コロニア・オキナワ」から沖縄県へ大豆の輸出
- d. 海外県人会・県内企業と県海外事務所との連携

【課題④(海外ネットワークの県内活動拠点)関連】 p10

- a. 世界ウチナンチュセンター設立支援委員会

b. 次世代ウチナーネットワーク継承基盤構築事業

Ⅲ 4つの課題にかかる検討・考察 p12

1. 「課題① 若者の県人会活動等への参加減少傾向」について

●若者が沖縄の文化継承活動により多く参加し、世代間の連携を促進するための提案:

- a. 沖縄文化のオンライン・オンデマンド教室
- b. 世界のウチナーンチュ(老若男女)のオンライン交流
- c. 専門性(あるいは興味関心)でグループづくり

2. 「課題② ウチナーンチュの意識・アイデンティティの低下」について

p12

●“ウチナーンチュ”としての意識を高めるための提案:

- a. ウチナーンチュ意識の「見える化」
- b. 「ネット」ワークから「ノット」ワークへ
- c. WUN:ウチナーネットワークのCyberプラットフォーム

3. 「課題③ ウチナーネットワークの有効活用」について

p14

●ウチナーネットワークが沖縄経済の自立的発展に寄与するための提案:

- a. ウチナーネット(ノット)ワークで、まずは「肝心」
- b. つなぎ方次第で大いに活用できる
- c. 活躍する海外人材(海外県系人)と県内企業とのきめ細かなマッチング
- d. ビジネスの展開を沖縄のネットワークの価値観に沿ったものへ

4. 「課題④ 海外ネットワークの県内活動拠点」について

p15

●沖縄県内に海外ネットワークの活動拠点を設置・定着させるための提案:

- a. 県内活動拠点:ウチナーネットワークの可視化プラットフォーム
- b. WUB ネットワーク等との連携
- c. 県庁内の横の連携の強化

Ⅳ おわりに

p16

○資料編(アンケート調査)

p18

○略語一覧

p22

○アンケートに協力いただいたウチナーネットワーク団体 (URLの掲載承諾を得られた団体一覧)

p22

## I. はじめに

### 1. 「海外ネットワーク」について

「沖縄 21 世紀ビジョン・基本理念」<sup>1</sup>を受けて策定された「沖縄振興計画」<sup>2</sup>には施策展開の枠組みとして、「21 世紀万国津梁実現の基盤づくり」がある。そこには人・モノ・資金・情報などの資源が国境を越えて活発に行き交う国際的なプラットフォーム(共通基盤)の形成があり、文化活動や経済活動等、多分野と多元的な交流を通じて形成される「世界のウチナーネットワーク」<sup>3</sup>を拡大することへの期待が高まった。

「ウチナーネットワーク」とは、「①沖縄県系人(海外及び県外に移住した沖縄県出身者やその子弟)、②沖縄県民、③沖縄と縁のある人々、との多元的なつながり」をいい、血縁の繋がりだけではなく、幅広いネットワークであることが沖縄県において説明されている。

### 2. 世界のウチナーネットワークに関する取組

#### (1) 世界のウチナーンチュ大会

「世界のウチナーンチュ大会」は、海外に住む沖縄出身者のネットワークを作することを目的とし、1990 年に初めて開催され、17 か国から 2,397 人が参加した。その後、1995 年(第 2 回)、2001 年(第 3 回)、2006 年(第 4 回)、2011 年(第 5 回)、2016 年(第 6 回)に開催された。

第 6 回大会において、大会参加の目的を尋ねたところ、海外からの参加者は、(1)沖縄の文化や伝統を学ぶため(15.7%)、(2)親戚に会うため(14.5%)、(3)自分のルーツを確認するため(11.4%)と回答した。一方、国内(県内・外)参加者は、(1)イベントに参加するため(各 18.3%、18.5%)と回答し、目的が国内外で大きく異なることが明らかになった。<sup>4</sup> また一世の割合が低下し、四世が増加し、世代のシフトがみられたこと、海外・県外・県内のいずれも参加者の 7 割弱が初めての参加であること等も特徴的である。<sup>5</sup>

#### (2) 県による事業・取組

沖縄県は、2007 年度より Web と SNS による海外のウチナーンチュ同士、県内外と海外との相互交流プラットフォームとして WUN を構築した。さらに、沖縄文化芸能者の海外派遣、出前講座(レッツスタディ！ウチナーネットワーク)および指導者養成講座の実施、次世代ウチナーネットワーク強化討論会、世界のウチナーンチュの日、トークイベントの開催、移民歴史啓発イベントなどに取り組んできた。

<sup>1</sup> 平成 22 年 3 月制定。時代を切り開き、世界と交流し、共に支えあう平和で豊かな美ら島おきなわ、と記載。

<sup>2</sup> 「沖縄 21 世紀ビジョン基本計画」(平成 24 年 5 月)には、地球規模で人・モノ・資金情報などが行き交う現代にあって、東アジアの中心に位置するなどの沖縄の持つ特性は、諸外国・地域との経済、学術、文化、スポーツなどの分野で交流と連携を深めながら、ともに発展していくという枠組みの中でこそ発揮される。

<sup>3</sup> ウチナーネットワークの「ウチナー(沖縄)」とは、①海外および県外に移住した沖縄県出身者やその子弟(沖縄県系人)、②沖縄県民、③沖縄と縁のある人々、である。例えば、①は第 6 回世界のウチナーンチュ大会に合わせ、海外で生活する県系人の人数を 41 万 5361 人とする推計をまとめた。前回大会(2011 年)から約 1 万 6 千人が増え、初めて 40 万人を突破。第 1 回大会(1990 年)の 27 万人から 1.5 倍に増えた(沖縄県交流推進課 2016)。

<sup>4</sup> 世界のウチナーンチュ大会参加者アンケート結果(2016、p.145)

<sup>5</sup> 世界のウチナーンチュ大会参加者アンケート結果(2016、p.145)

2017年度からは、「世界のウチナーネットワーク継承・発展事業」を実施している。主な活動は3つあり、「世界のウチナーネットワーク」総合交流プラットフォームの構築、「世界のウチナーンチュの日」に係る広報及びイベントの企画・運営・実施、持続可能な世界のウチナーネットワーク発展モデル事業、である。

このうち、「持続可能な世界のウチナーネットワーク発展モデル事業」は、世界のウチナーネットワークの多面的な活用(WYUA、WUB)に向けたモデル事業であり、モデル地区をペルーとし、同国の県人会及び若手メンバーのニーズを募った。例えば、「日本、沖縄のホスピタリティーを学び、将来的に沖縄でペンションを経営しながら、ペルーからの研修生の受け入れる」、「音楽やメディア活動を通して、青少年へ国際コミュニケーションやリーダーシップを育み、沖縄とペルーの発展に貢献したい」という要望に対し、WUB 沖縄会員に協力を呼びかけ、マッチングに向けて様々な調整を実施したところ、パートナー企業として2社とのマッチングに成功した。その後、提案者2名を沖縄へ招聘する手続きを行ったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で入国待ちの状況が続いている。

### 3. 世界のウチナーネットワークに関する課題

「沖縄振興計画」について審議する沖縄県振興審議会において、令和元年度、令和3年度まで残りの計画期間における施策展開と新たな振興計画の策定について審議された。その中において、重要性を増した課題として『『ウチナーネットワーク』の継承・拡大』が掲げられ、「国際交流の推進については、海外在住の県系人の世代交代が進む中、若者の県人会活動等への参加が減少傾向にあるなど、ウチナーンチュとしての意識、アイデンティティーの低下が懸念されている。」との意見が付された。

また、前述の附帯意見に加え、沖縄21世紀ビジョンの将来像「世界に開かれた交流と共生の島」の実現に向け基本的課題として示されたネットワークの「活用」についても海外活動拠点という観点から課題として追加し、世界のウチナーネットワークの継承・発展に向けた課題として、次の4つが挙げられた。<sup>6</sup>

- ① 若者の県人会活動等への参加が減少傾向
- ② ウチナーンチュとしての意識・アイデンティティーの低下
- ③ ウチナーネットワークの沖縄経済の自立的発展への有効活用
- ④ 海外ネットワークの県内活動拠点の要望

これらの課題にどのように取り組み、ウチナーネットワークの継承・発展の推進、強化を図るべきかを検討するため、「海外ネットワークにかかる万国津梁会議」が設置された。本会議は2020(令和2)年度に3回開催し、知事との意見交換も実現した。2021(令和3)年度に2回の会議を開催した。

---

<sup>6</sup> 県人会・民間大使向けアンケート調査等より(平成28年)

## Ⅱ. 4 つの課題にかかる分析

### 1. 課題の背景

課題①「若者の県人会活動への参加減少傾向」は、ウチナーンチュ大会参加者アンケートにおいて「県人会活動への参加率が 59%(2011)から 42.8%(2016)に低下した」という結果を受けて抽出されたものである。<sup>7</sup>

課題②「ウチナーンチュの意識・アイデンティティの低下」は、県振興審議会の専門部会において「若者にウチナーンチュとしての意識や誇り、アイデンティティの低下が懸念されている」<sup>8</sup>という指摘がなされたこと、さらに、世界のウチナーンチュ大会アンケートで「自分をウチナーンチュだと思うかどうか」という質問に対する回答が 83%(2011)から 79%(2016)に低下した<sup>9</sup>という結果に基づくものである。

課題③「沖縄経済の自立的発展のため、ウチナーネットワークの有効活用」する点については、玉城知事公約において「世界のウチナーンチュネットワークを生かし、その活力を取り入れ、沖縄経済の自立的発展にもつなげる」ことが掲げられていたものである。

課題④「海外ネットワークの県内活動拠点」は、1987年に県民から県系人の交流活動拠点を目的とした施設の建設要望や、第2回及び第3回の世界のウチナーンチュ大会での提言等があり、1996年に沖縄県にて建設基本計画が策定されたものの、当時の県行財政改革により2007年に計画の廃止が決定されている。しかしながら、現在も一部団体から継続的に要望があがっているものである。

### 2. 課題の現状分析

#### (1) アンケート調査の実施

本会議として、4つの課題の現状を把握・分析するため、アンケート調査を実施した。対象は417団体で、回答があった団体は69団体(回答率16.5%)、同一団体における他者回答を含めると回答数は73であった。内訳は、海外県人会が34、国内県人会が6、県・市町村団体が6、民間大使が4、大学が0、県内国際交流団体が13、大会実行委員会などが3、海外事務局関連企業が0、WUB関連団体が5、ペルーの市町村会が2であった。

本会議に提示された4つの課題は「世代」、「地域」、「所属」に関連する。そのため、この3つの分類においてどのような傾向があるのかを分析した。(グラフ・図の詳細は資料編を参照。以下同じ。)

#### a. 沖縄の文化継承に係る活動のこれまでの実施状況について(課題①関連)

世代別では、中年層(40～50代)が若干少なく、若年層(～40歳)は比較的活動を実施している

<sup>7</sup> 但し、アンケートでは若者を対象に聞いた質問でないため、必ずしも若者の傾向とはいえない。

<sup>8</sup> 第5回沖縄県振興審議会文化観光スポーツ部会(令和元年11月20日)議事録より。

<sup>9</sup> 世界のウチナーンチュ大会参加者アンケート結果より(2016 p. 148)。しかし、地域別の内訳では87.7%(海外)、87.9%(県内)、77.2%(県外)であり、海外や県内は逆にウチナーンチュとしての意識は高い。

傾向にあった(図1参照)。地域別に県人会の活動状況を比較すると、県外の県人会、北米、南米の県人会にて沖縄の文化継承活動が実施されている状況であった。この結果からも、若者が沖縄の文化継承活動から離れているわけではないことが明らかとなった。そのため、若者の参加減少という指摘は、県人会の重鎮の方々が若者を見て自分たちと違う行動をとることに対する「苦言」である可能性も考えられる。

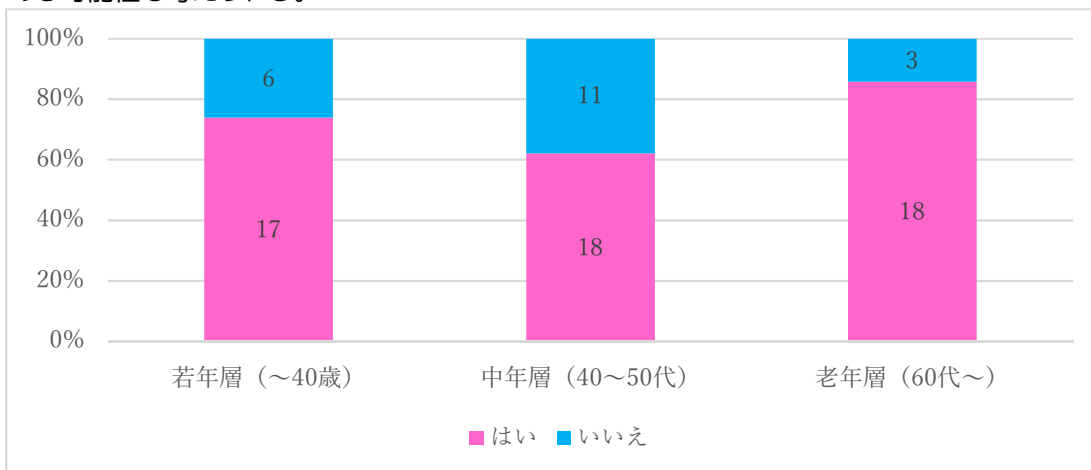


図1:沖縄文化継承の活動 (世代別)

b. 世界のウチナーンチュに関するイベント・活動実施状況について (課題②関連)

世代別では、若年層が一番、世界のウチナーンチュ関連のイベントや活動を活発に行っていた。地域別では、県外、アジアでの活動は約半数が実施していないと回答したのに対して、北米、南米など沖縄からの距離が遠いほど、啓発活動をしている傾向があった(図2参照)。県人会に関しては、どの地域の県人会も世界のウチナーンチュに関するイベントなどを実施していた。

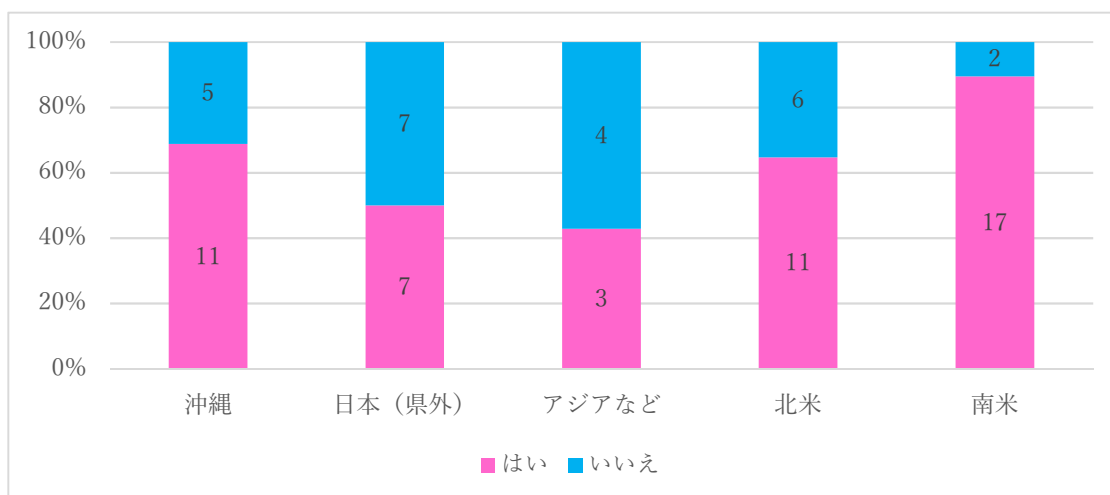


図2:世界のウチナーンチュに関するイベント活動実施状況(地域別)

c. 沖縄経済の自立的発展に向けたウチナーネットワークの寄与について(課題③関連)

世代別では、若年層が「自分が所属する団体は沖縄の自立的発展に寄与できる」と90%以上が前向きに回答した。地域別では沖縄県内の団体全てが、そして南米や北米など沖縄から遠方になればなるほど「寄与できる」と回答する傾向がみられた(図3参照)。一方、「寄与できない理由」として、「利害の一致が難しい」、「非営利団体として登録しているためビジネスに関われない」、「沖縄の政治的問題が多すぎて経済の安定が望めない」、「小規模、経済力の低い団体では沖縄経済の発展に寄与するほど力がない」などの回答があった。

これらは、沖縄を取り巻く社会情勢を冷静に分析した現実的な回答と考えられる。ウチナーネットワークを用いたビジネスを県外、アジア地域などで展開する場合、考慮が必要と思われる。

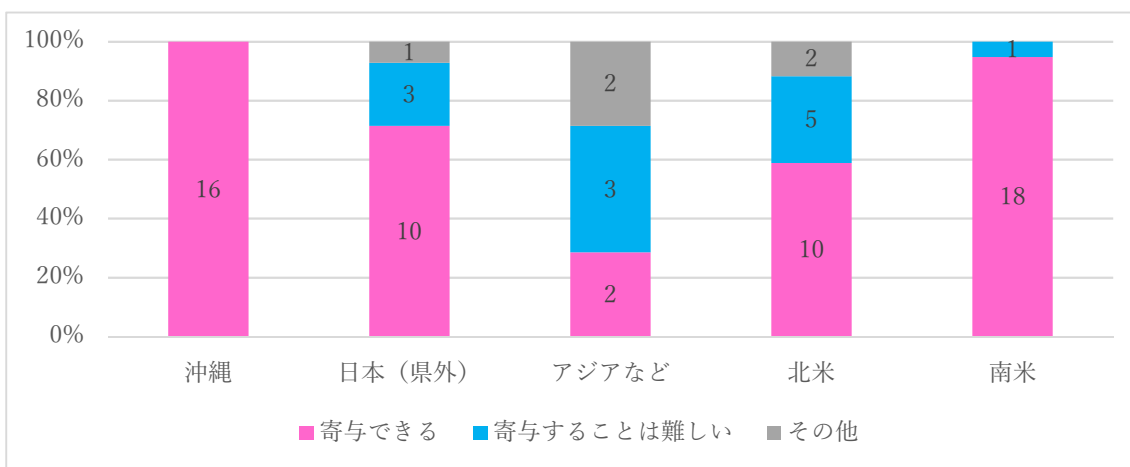


図3:貴団体は沖縄経済の自立的発展に向けてウチナーネットワークが寄与できるか(地域別)

d. 海外のウチナーンチュとの事業・ビジネス経験について(課題③関連)

世代別では、若者層に事業・ビジネス経験が多い傾向にあった(図4参照)。<sup>10</sup>地域別ではアジア地域で、事業・ビジネス経験がないという回答が顕著であった。地域別県人会でもアジア、そして県外の県人会にて、海外のウチナーンチュとの事業・ビジネス経験がないという回答が目立った。

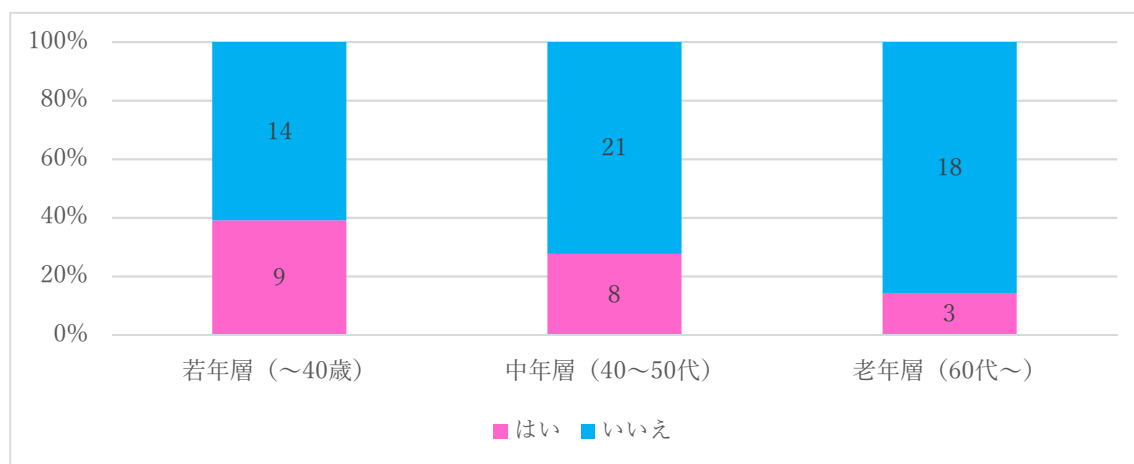


図4:海外のウチナーンチュとの事業・ビジネス経験(世代別)

<sup>10</sup> ウチナーネットワークをどのように「活用」して事業・ビジネスを実施したのかの事例は後述する。



e. 世界のウチナーンチュの拠点として必要な機能について(課題④関連)

沖縄県内に、世界のウチナーンチュの拠点を設立するとしたらどのような機能が必要かを質問したところ、「人的ネットワークを繋ぐ機能」に対する要望は、若年層、国内の県人会に強いリクエストがあった。また「情報の集約と発信の機能」に対する要望はアジアを除き、どの世代・地域も同程度要望があった。「オンラインイベントなどを実施する機能」に対する要望も、前述の要望と同程度であったが、若干、県外の組織(県人会を含む)で要望が少なかった。「交流の総合的窓口機能」および「移民歴史資料の情報収集機能」に関する要望は、アジア以外はどの世代・地域でも60~80%の要望があった。

f. 本会議へ期待することについて

今回、アンケートの質問のひとつとして「貴団体がこの『海外ネットワークに関する万国津梁会議』に期待すること」の自由記載を求めた。その記述を図式化すると、世代別では、若年層と中年層の共通語として「ネットワーク」、「文化」、「世界」が頻出したのに対して、中年層と老年層では「イベント」、「交流」であった(図5参照)。組織別では、県人会、留学生会に共通する頻出語が「沖縄」であったのに対して、自治体、青年会は「世界」「人」「ネットワーク」であった。地域別では沖縄県内外(日本)で「ネットワーク」「文化」「世界」が頻出語であったのに対して、海外(北米・南米・アジアの共通語)は「イベント」であった。

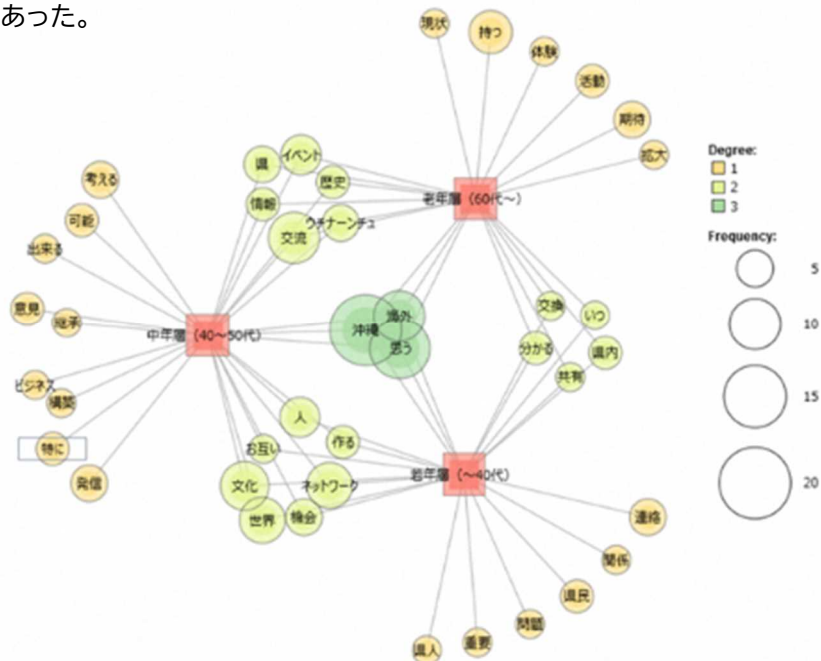


図5: 貴団体がこの『海外ネットワークに関する万国津梁会議』に期待すること(世代別)

以上の結果から、「ネットワーク」で広がる「世界」との繋がりに期待を抱く群(若者、市町村、県内外)と、「沖縄」関連「イベント」による「交流」を期待する群(海外、県人会、高齢層)という2つの異なる特徴がみられた。これらの期待は、本会議が検討対象とする4つの課題の考察の際に留意することとする。

#### g. 第7回世界のウチナーンチュ大会の開催について

今回のアンケートで「現在、新型コロナウイルスの影響が長期化した状況において、次回の第7回世界のウチナーンチュ大会は、どのような開催方法や交流のあり方を提案したいか」という質問し、自由記載を求めた。その結果、全世代で共通して「オンライン開催」を求める声が多かった。また若年・中年層では「沖縄」、「イベント」が共通語として挙げられ、沖縄で開催するイベントをオンラインで中継する「ハイブリッド」形式を提案する回答が多かった。組織別でも「オンライン」「参加」「開催」という言葉が目立ち、特に青年部が「沖縄」「イベント」を挙げている。地域別でも各地域で共通して「オンライン参加」、「開催」の意見が多い中で、北米・南米では「沖縄」の「イベント」を望む意見、また県外と南米からは大会を通じて「世界」と交流することを期待する傾向がみられた。

### (2)現在進行中の取組・事業

【課題①(若者の参加低下・世代間ギャップ)関連】

#### a. # UCHINA 1000

WUB ネットワークが主催するイベントの1つで、世代を超えて、地域を超えて、気軽に世界のウチナーンチュが集うツール「#UCHINA 1000」がある。Zoom 会議を通じて世界のウチナーンチュと定期的<sup>11</sup>にインターネット上で顔出し参加で繋がる機会を設け、5年に一度の世界のウチナーンチュ大会の間隙を埋める役割を果たしている。また、毎回テーマを設け、ウチナーンチュによる専門的な話(講演)を聴く事が出来る。参加者は老若男女、南米・北米・アジアと様々な地域からであり、移動する必要がないこともあり、若者層と高齢層が一堂に会することによって、同一体験ができる点から、ウチナーネットワークの充実・拡大にポテンシャルが高い事業であると言える。

#### b. 次世代ウチナーネットワーク継承基盤構築事業

同事業(通称、ウチナーネットワークコンシェルジュ、以下 UNC)は、ウチナーネットワークに関する事業の実施機関が分かれている状況下で、窓口の一元化を目指し、沖縄県が実施主体となり、2020(令和2)年度に準備を開始し、2021(令和3)年度から始動することとされている。具体的な取組は、本事業を受託した WYUA(一般社団法人世界若者ウチナーンチュ連合会)と JOCA(公益社団法人青年海外協力協会)により進められる。また、JICA 沖縄(日系社会支援事業)とも連携し、UNC の拠点(事務局)として JICA 沖縄の施設の一部を使用することとしている。同事業は、国内外に広がるウチナーネットワークを次世代へ安定的に継承するためのプラットフォームの構築を目的とし、5つの機能強化を目指す(人的ネットワーク継承、情報発信・集約、交流活動促進、相談窓口、歴史継承推進)。具体的には、日常的な話題提供やオンラインイベント開催などにより SNS 上の交流を推進する。<sup>12</sup>また人的ネットワークに関しては、ウチナーンチュ子弟留学生事業の受け入

<sup>11</sup> 第1回目は2020年5月10日、第2回目は6月28日、第3回目は8月29日、第4回目は12月26日第5回目は翌年4月17日と、頻繁に開催している。

<sup>12</sup> 2020年12月から2021年1月にかけて「第7回世界のウチナーンチュ大会開催に向けた海外県人会等 Web 会議」がアルゼンチン、ブラジル、ハワイを対象に2回開催された(同事業報告書 2021)

れ<sup>13</sup>などの業務を担当し、過去の受け入れ・派遣参加者の連絡先の更新・整理も行う。

### c. 移民の歴史啓発事業

沖縄県が実施するレッツスタディーウチナーネットワーク事業は、受託団体であるNPO法人沖縄NGOセンターにより、県内の小中高大学での移民に関する出前講座が毎年数多く開催され、若者の沖縄移民に関する歴史啓発活動が行われている。近年、副教材として子どもにも初心者にも沖縄移民の古今がわかりやすい冊子「レッツスタディー！“Worldwide Uchinanchu”」が刊行<sup>14</sup>された。また、県主催の演劇公演<sup>15</sup>も、県内の幅広い世代に対してわかりやすく移民の歴史の啓発を図る事業の一つである。その他にも、名桜大学にて毎年開催<sup>16</sup>していた世界ウチナーンチュ学生サミットは、ウチナーンチュ子弟留学生と沖縄県内の大学生との交流から始まったものであるが、第6回学生サミットでは沖縄県と共同で「ネットワークの継承と発展」に関する討論会が開催された。<sup>17</sup>これらの試みはすべて、若者への移民の歴史に関する啓発活動として高く評価できる。

### 【課題②(ウチナーンチュの意識・アイデンティティの低下)関連】

ウチナーンチュの意識の低下に対する課題を、沖縄の出自の人かどうかを問わず、沖縄のことをもっと好きになってもらうにはどうしたらいいか、まで広げて捉えた場合、以下のような事例がある。

#### a. WUN の Web サイト

沖縄県は2017(平成29)年度よりWebとSNSによる海外のウチナーンチュ同士、県内外と海外との相互交流プラットフォームとしてWUNを構築した。内容は、同Webサイトに海外県人会や県内交流団体、留学生などのインタビュー、各団体の投稿した活動状況の情報、世界で活躍するウチナーンチュコラム等、幅広い世代の興味を引くコンテンツの紹介、伝統芸能動画等海外県人会が興味を引くコンテンツの紹介、海外・国内基礎情報、各国の移民史、県人会沿革について、世界のウチナーンチュ大会、関連イベントなどをデータベース化し、SNSなどにより情報を発信している。そしてWebへのアクセスや活動状況投稿が増えることにより、更にWeb内の情報が充実するという仕組みである。

ウチナーネットワークのWeb上の総合プラットフォームとしてWUNの持つポテンシャルは高い。今後は、今まで以上に自らが関わった事業や収集したデータの公開だけでなく、ウチナーンチュによる文化継承活動関連団体や個人のWebのリンク先を紹介するなど、広範囲にわたる情報の収集と収束および発信機能の強化が期待される。また次世代ウチナーネットワーク継承基盤構築事

<sup>13</sup> 昭和47年から継続している事業。帰国後連絡が取れる留学生は10%程度(第3回会議より)。

<sup>14</sup> 2020年2月刊行、DFデータはWUNのウェブサイトからダウンロードが可能(<https://wun.jp/wp-content/uploads/2020/06/c6c9e2c7e38f4cad8d9098581406fb45.pdf>)

<sup>15</sup> 2018~2020年度まで毎年開催(平良新助、世界のウチナーンチュ大会誕生の経緯、伊芸銀勇に関する物語)

<sup>16</sup> 2014年より毎年10月に開催(2020年はCOVID-19で中止)。主催者は「世界ウチナーンチュの日」の制定に尽力した、比嘉アンドレス氏と伊佐アンドレス氏。

<sup>17</sup> 2019年12月12日名桜大学にて

業に関する情報を WUN で一元化するなど、常に進化する“プラットフォーム”を心がけ、WUN の知名度・アクセス度を高める必要がある。

#### b. #世界のウチナーンチュ(#sekainouchinanchu)

当該事業は、facebook と Instagram を活用した、ウチナーネットワークの情報共有等の推進を目的した事業で、WUN のプラットフォーム化を目指した。推進キャンペーンとして 2020(令和 2)年9月から 11 月まで集中的に行い、SNS 広告を配信し海外&国内&県内のウチナーンチュに広く参加を呼びかけた。2ヶ月間において、タグ付け記事の総数は約 300 件、記事に付いた「いいね」の総数は約 15,000 件であった。本事業は、#への参加を通じて沖縄について知る機会を多くの参加者に促した。

#### 【課題③(ウチナーネットワークの有効活用)関連】

##### a. JICA 中小企業・SDGs ビジネス支援事業の活用

JICA が実施する同事業は、途上国が抱える課題解決と企業の海外展開を兼ねて実現することを目指している。同事業を活用し、レキオソフト(株)は、2019 年～2020 年にペルーにおいて自ら開発した早期地震探知システムの導入にむけた調査を実施、日本・ペルー防災センターや環境省地球物理庁、国家防災庁とも連携し、現地受注に向け取り組んでいる。<sup>18</sup>また、トマス技研(株)は、2016 年からインドネシアの医療機関で医療廃棄物を安全かつ環境にやさしく処理をする小型焼却炉(チリメーサー)の普及実証事業を実施し、10 台余の契約につながった。<sup>19</sup>

##### b. WUB ネットワーク

WUB ネットワークは、2019 年にフロリダで開催された WUB 会議でトマス技研(チリメーサー)の紹介をし、多くの参加者が興味を持った。WUB ネットワーク創始者が沖縄のトマス技研を訪問、同年、ハワイの島々を同社長が訪問し、契約が成立した。<sup>20</sup>

また、県内外でパークたまごおにぎりの専門店を展開する(株)ポーたまがハワイ出店を検討、WUB 沖縄支部へコンタクトを取り、WUB 創始者及び WUB ハワイへと繋がり、当該団体の全面的な支援を受け、2021 年に出店を実現した。<sup>21</sup>

なお、WUB インターナショナルは、上記のビジネスを繋いでいく取組に加え、2011 年からは、沖縄県宮古島と関西地域において、ハワイ州マウイ島の高校生とハワイと異なる文化に触れる学生交流事業にも継続的に取り組んでいる。WUB がハワイ・沖縄・関西のネットワークを活用した取組事

<sup>18</sup> 琉球新報 掲載記事より(2020 年 3 月 20 日)

<sup>19</sup> 琉球新報 掲載記事より(2020 年 4 月 14 日)

<sup>20</sup> 第 1 回本会議議事録(トニー佐久田氏)より

<sup>21</sup> 「ポーたまハワイ出店 WUB ネットワークの交流について」(2021 年 3 月)WUB 提供資料より

例であり、人材育成にも積極的に取り組んでいる。<sup>22</sup>

c. 県系移住地「コロニア・オキナワ」から沖縄県へ大豆の輸入

石垣市の農業生産法人(ゆいまーる牧場)が、ボリビアの県系移住地「コロニア・オキナワ」から牛の飼料用大豆の直輸入を開始した。県出身者が経営する貿易会社を介し、直接輸入することによりコストが40%削減された。今後は直輸入を定期的に行い、「物流のハンディを乗り越え、沖縄のブランド牛を増やしたい」<sup>23</sup>と事業の拡大を目指している。

d. 海外県人会・県内企業と県海外事務所との連携

在中国の日本人留学生及び日本語専攻学生などの中には、沖縄で働きたいという声も多い。そこで上海県人会が交流会を設定し、県上海事務所と連携して、上海と沖縄の橋渡しを行った。2017年には10企業、51名が参加、2018年には15企業41名が参加した実績がある。

また、県内企業と県海外事務所との連携事例として、2020年、県内漁業団体が水産物をシンガポールへ輸出するにあたり、現地の簡易ハラール認定制度へ登録できるよう、県シンガポール事務所や県内貿易会社が地元沖縄企業に協力した事例がある。その後、当該海外事務所が現地大手食品会社へ当該水産物を紹介し実際の出荷に繋がった。

参考までに、2020年度のアジアの県海外事務所の活動に関して、例えば台北事務所の報告<sup>24</sup>では、コロナ禍でも日本資本は盛んに新規参入し、各種サービス業はコンテンツ配信やEコマースなど、オンライン関連は成長しており、デジタルマーケティングの重要性はいまだに高く、今後の沖縄出身留学生の中長期的な活用が重要視されている。北京事務所の報告では、2019年にはオンラインショッピングの家ライブコマースによる売り上げが前年比3倍に増加し、ビジネスの新しい形態として注目を集めている。<sup>25</sup>シンガポール事務所では、現地旅行社に対するWebinar実施、沖縄のバーチャルツアーで旅行商品の造成や販売を協議中である。<sup>26</sup>

【課題④(海外ネットワークの県内活動拠点)関連】

a. 世界ウチナンチュセンター設立支援委員会による要請等

世界ウチナンチュセンター設立支援委員会は、2020年度に発表した報告書「世界ウチナンチュセンター:沖縄に本家をつくろう!!」において、「1990年にはじめて開催された世界のウチナンチュ大会から6回、26年の歴史を数えるこの国際交流イベントを単なるイベントだけで終結させるのではなく、世界ウチナンチュの一体的未来社会の構築にいかにか結実させるかという時代に入った」いま、「同大会で蓄積してきた世界のウチナンチュネットワークを更に構築、活用し、

<sup>22</sup> 「WUB 関西 マウイ学生交流事業」WUB 提供資料より

<sup>23</sup> 琉球新報 掲載記事より(2020年5月12日)

<sup>24</sup> 「変化する台湾市場へのアプローチ」(沖縄県産業振興公社台北事務所 仲本氏)プレゼン資料より

<sup>25</sup> 「新型コロナで変わったこと、変わらないこと」(公益財団法人沖縄県産業振興公社北京代表処首席代表 町田氏)のプレゼン資料より

<sup>26</sup> 「シンガポールの現状・変化・今後の展望」

各国・地域との情報交換、人材交流、経済・文化交流を積極的に推進する」ためには、「各地域の沖縄県人会と沖縄をネットする本家(むーとぅや)、“世界ウチナーンチュセンター”を沖縄に設置し、世界のウチナーンチュの一体感を一層造成することが肝要である。」<sup>27</sup>と述べている。多数のウチナーンチュの有識者・関係者の意見が掲載されており、同センターに対して多機能を求めている。

他にも類似の構想として、比嘉アンドレス氏を中心に議論されている「万国津梁センター(仮称)」案がある。同氏の説明によれば、沖縄を中心に世界へとつなげる窓口や事務所の機能を持ち、その窓口を通じて文化の共有やビジネスのきっかけになる品物の輸出入を通じて、世界中のウチナーンチュのネットワークを強化するものであり、世界のウチナーンチュの研修生や留学生を増員することにより、互いの国の良いところを更にミックス(チャンプルー)し新しい文化の発展にもつなげるという構想である。

#### b. 次世代ウチナーネットワーク継承基盤構築事業

前述のとおり<sup>28</sup>、同事業の拠点(事務局)は、連携先の JICA 沖縄の施設の一部を使用することとなり、今後、交流(海外関係者とのオンライン交流、県内交流団体も使用可能な場)や史料閲覧(移民資料情報収集、展示、閲覧)のスペース等の確保が検討されている。

---

<sup>27</sup> 世界ウチナーンチュセンター設置支援委員会(2020)「世界ウチナーンチュセンター:沖縄に本家をつくろう!」pp.1-2.

<sup>28</sup> (2)課題①bに記載

### Ⅲ. 4つの課題にかかる検討・考察

4つの課題にそれぞれについて、5回の会議で委員から出された意見や議論を紹介するとともに、今後に向けての提案・提言を示す。

#### 1. 「課題① 若者の県人会活動等への参加減少傾向」について

若者の県人会などへの参加が減少傾向にあるという指摘があるが、そもそも県人会という対面組織で人が繋がる形態から、近年の情報化社会の潮流で SNS 等を通じたインターネット上の繋がりが中心にシフトしている。実際に、若者たちは海外にウチナーンチュがいることを知る機会が増えてきている。また WYUA の活動や県内大学での取り組みを見ると、必ずしも若者の意識が低下しているとは言えない。但し、南米、北米、欧州、アジアで県人会の規模や国による違いがあり、大陸ごとに課題を捉える必要がある。

●若者が沖縄の文化継承活動により多く参加し、世代間の連携を促進するための提案：

##### a. 沖縄文化のオンライン・オンデマンド教室

コロナ禍でも左右されない新たな繋がり方で(オンライン等)、ウチナーネットワークを強化する。具体的には、沖縄の文化継承(しまくとぅば、三線、空手など)に関するオンライン・オンデマンド講習の更なる普及と支援を行う。

##### b. 世界のウチナーンチュ(老若男女)のオンライン交流

世界のウチナーンチュ老若男女が集う仕組みを継続的かつ頻繁に実施できるような活動を WUN で紹介する。例えば、#UCHINA1000 のオンライン交流など。

##### c. 専門性(あるいは興味関心)でグループづくり

例えば、#UCHINA1000 では、様々な専門分野で活躍するゲストによる講演がある。講演者と繋がりたい人同士がグループを作り、更に話を深めやすい環境づくりをする。共通の課題に対して多様なアクターが交流し支えあう場づくりを設定する。そこで新たなアイデア、活動が生まれるのではないかと期待したい。(沖縄県は 2020 年度から「持続可能な世界のウチナーネットワーク発展モデル事業において、ビジネスを掛け合わせたモデル事業を試験的に行っているが、SDGs がビジネス範囲の基本的方向性を保つ役割を担っているなど、ウチナーネットワークに SDGs の概念を取り入れている。<sup>29)</sup>

#### 2. 「課題② ウチナーンチュの意識・アイデンティティの低下」について

海外・県内の状況からウチナーンチュとしての意識などの低下やアイデンティティの低下はみられ

<sup>29)</sup> 同事業は、業務提携は WUB であり、例えば、現地の海外県系人が提案する段階で SDGs のどの番号に位置づけられるかを審査し、SDGs の範囲外のビジネス提案は採用されない仕組みとなっている。また、県内企業(※WUB 沖縄会員)へのパートナーマッチングの際にも「ウチナーネットワークの継承と活用」×「SDGs」のスキームで説明。(同仕様書及び沖縄県へのヒアリングより)

ない。そもそも、アイデンティティは個人に属するものであり、ウチナーンチュのアイデンティティも一般県民と海外の県系人、移住先における世代や地域・歴史・社会環境などによって様々であり多様性がある。したがってアイデンティティを“継承”するという表現自体に疑問がある。継承を望むのは、「助け合い(ゆいまーる)」、「異文化の受け入れ」、「平和」といった沖縄の精神文化である。また県系人の意識の低下などが課題として取り上げられているが、まずは「ウチナーネットワーク」の定義について共通認識を持つべきである。「ウチナーネットワーク」とは、広義の意味で沖縄に祖先をもつ人のみならず、沖縄に縁のある人、沖縄が好き的人也対象である。そのためウチナーンチュのネットワークに参加する者の多様性についても共通認識が必要である。

●“ウチナーンチュ”としての意識を高めるための提案:

a. ウチナーンチュ意識の「見える化」

『ちむぐくる(肝心)』、『うとういむち(おもてなし)』の精神は目に見えず表現しにくい。それを見える化し、県民が表現していくのが大切<sup>30</sup>である。

b. 「ネット」ワークから「ノット」ワークへ

「ネット」ワークは、中心があり放射線状の繋がりである。蜘蛛の糸のごとく、中心が破損したら瞬く間に広がってしまうという弱点がある。これからの時代は「ノット」ワーク、すなわち「チーム」(組織)の運営や内部の人間関係に左右されることなく、境界(チーム)を超えて結び合い、変化しつづける人間関係のなかで流動変化する現代の協働の学びと主体性のかたちを示す活動を意識する方が、レジリエンスが高く、かつ個々の“ウチナーンチュ”としての思いや興味関心が広がり深まると考える。<sup>31</sup>すなわち、他地域のウチナーネットワークとの能動的連携を支援することが、総じてウチナーンチュの意識の向上に繋がる。

c. WUN:ウチナーネットワークのCyberプラットフォーム

沖縄の、特にウチナーネットワークのことが凝縮される Web サイト「WUN」は、ウチナーネットワークの更なる強化と拡大に寄与する可能性が期待される。

Web サイト「WUN」をウチナーネット(ノット)ワークのCyber(インターネット上の)プラットフォーム(繋がる共通の土台)とするため、国内外の様々なウチナーンチュ活動の HP の URL や SNS を紹介する。まずは今回、委員会の実施したアンケートの対象団体には、本報告書の内容をフィードバックし、回答のあった活動の URL を全て WUN に掲載することを期待する<sup>32</sup>。沖縄県主催・沖縄県の企画推進事業以外の情報も掲載することが望まれる。概して沖縄好きの人は世界に多数存在し、その数は年々増している。彼らが、沖縄の美しい自然や人の温かさのみならず、なぜ沖縄人が世界のあらゆる土地で根付くようになったかという移民の歴史や社会背景を

<sup>30</sup> 第 5 回沖縄県振興審議会文化観光スポーツ部会(令和元年 11 月 20 日)議事録より(佐野、富田)

<sup>31</sup> 第 2 回本委員会での意見(小川)

<sup>32</sup> 課題①関連 URL(23 件)、課題②関連 URL(21 件)課題③関連(6件)、団体の URL 紹介可能:33 団体(/41 団体中)



知ることにより、沖縄を更に身近にそして魅力的に感じることができ、“ウチナーンチュ”人口は益々増加すると推測される。

なお、コロナ禍で培ったオンライン交流の経験は応用すべきだが、対面と比較してオンライン交流は「共感」度が劣る懸念がある。そのため、オンライン交流の内容に関しては、「知識」に偏ることなく、「体験」や「共感」、「一体感」をどれだけ作り出し、共有できるかがカギとなるであろう。

### 3. 「課題③ ウチナーネットワークの有効活用」について

ウチナーネットワークは移民の歴史を起源としており、移住者の受難の歴史、相互扶助の歴史の根底にあるのは人間関係・信頼関係である。またウチナーンチュたらしめている「ちむぐくる」とは、琉球王国の時代、移民の歴史、戦争体験名地を生き抜いてきた中での「ゆいまーる」精神、普遍的な価値観、共感である。沖縄県民、本土にいる沖縄県出身者、そして沖縄好きな人々までネットワークを拡大することで、経済面だけのビジネスでなく、「ちむぐくる」による新たなビジネス(ソーシャルビジネス等)へと広がりを見せるのではないか。そもそもネットワークには「繋がりたい」と「使いたい」という2つの目的がある。本会議では「繋がる」ことをウチナーネットワークの第一の目的と捉えることにした。

#### ●ウチナーネットワークが沖縄経済の自立的発展に寄与するための提案:

##### a. ウチナーネット(ノット)ワークで、まずは「肝心」

ウチナーネットワークは肝心(「ちむぐくる」:友愛・相互扶助の精神)が大切であり、ウチナーネットワークの第一の目的は「肝心」である。ウチナーネットワークが、沖縄経済の自立発展に寄与するとしたら、それは肝心の結果であり、目的ではないが、その一方で、実際に、ウチナーネットワークを活用し、世界へビジネス展開した事例が出てきている(Ⅱ. 2. (2)参照)。

##### b. つなぎ方次第で大いに活用できる

ウチナーネットワークの定義は、沖縄に血縁がある人に限らず、沖縄が好きな人も含む。その広義なネットワークは「沖縄大好き、文化を通じた、ゆるっとしたネットワーク感は、沖縄のしたたかさ、つなぎ方次第で大いに活用できる」<sup>33</sup>というポジティブな見解がある。昨今、経済は、物流の売買によるのみならず、文化・教育とあらゆる分野での需要供給によって生じる。沖縄経済の発展のポテンシャルを、物の売買だけでなく、人や情報(人材育成、教育、文化継承)など知的市場へと拡大することに対して、ウチナーネットワークは、大いに「活用」することができるのではないか。

##### c. 活躍する海外人材(海外県系人、ウチナー民間大使)と県内企業とのきめ細かなマッチング

ウチナーネットワークは、アジアのみならず世界規模であり、国や地域の違いでビジネスの中身も違う。経営者としての海外県系人の把握、地域から信用のあるウチナー民間大使の活用、

<sup>33</sup> 第5回(令和元年11月20日)沖縄県振興審議会文化観光スポーツ部会議事録より(ダルース、平田)

そして県内企業とのマッチングの場をもつなど、直接、必要としている人同士を繋ぐ仕組みづくりは大切である。

d. ビジネスの展開を沖縄のネットワークの価値観に沿ったものへ

かつての移民先での模合、家族への送金、戦後の救済活動そして首里城復興支援に至るまで、沖縄県と海外移民コミュニティの繋がりは「金儲け」よりも「相互扶助」であった。ネットワークを活用した「ビジネス」展開も可能だが、「共助」という視点からのアプローチも、今後の県民の安全保障上、有効ではないか。グローバルな危機に対応するような助け合いの仕組みを、その親和性が高い様々なスキーム<sup>34</sup>を活用するなどして構築できないものか。

4.「課題④ 海外ネットワークの県内活動拠点」について

県内の活動拠点については、建設計画の正式な廃止決定の事実を踏まえつつ、本会議において、現実的にどのような形で、どのような機能を有する拠点を検討し得るかについて考察することには意味があると捉え、本会議によるアンケート調査の質問に含め情報収集も行い、意見交換を行った。今後、WUN等バーチャルのプラットフォームに加え、関連事業(教育・啓発、広報を含む)に関する情報管理・アクセス等が一元的に(ワンストップで)行えるコンパクトな窓口(コンシェルジュ)機能のための実拠点が県内に備わるとすれば、ウチナーネットワークの展開・拡充の大きな支えになると思われる。

●沖縄県内に海外ネットワークの活動拠点を設置・定着させるための提案:

a. 県内活動拠点:ウチナーネットワークの可視化プラットフォーム

WUNがウチナーネットワークのCyberプラットフォームであるのに対して、県内の海外ネットワーク活動拠点は、ウチナーネットワークの可視化プラットフォームである。5年に1度開催される世界のウチナーンチュ大会の肝心を継承・発展させるためにも、人的ネットワークを繋ぎ、情報の集約と発信を行う場が重要である。具体的には、オンラインイベントなどの実施のほか、交流の総合的窓口や、移民歴史資料に関する情報のワンストップ窓口などの場にもなるような、県内の活動拠点が設置されることが望ましい。

前述のとおり、県事業として「次世代ウチナーネットワーク継承基盤構築事業」(UNC)が開始され、JICA 沖縄とも連携し、施設の一部を使用して具体的な取組が進められようとしている。同事業は、今後の展開によって、本会議で考察した4つの課題を網羅的かつ根本的に解決する可能性が高い。そのため、一定期間、継続して取り組むべきであるとともに、県から委託先への業務の丸投げにならないよう、県として主体的に取り組むことが重要である。例えば、数多くの関連団体や個人が、本事業・本活動拠点を支える“当事者”であると実感できる対応(県からの協

<sup>34</sup> 例えばII(2)課題③aなど

力依頼、情報発信・共有)などにも留意が必要である。世代を超えた情報の共有が可能となれば、そのギャップを埋めることにも寄与するであろう。

また、現物(史料・展示物など)の収集・整理についても期待する声があるが、そうなると、広い施設・スペースが必要になる。県の計画が廃止になった経緯や持続的な維持管理の観点からは、既存の関連機関による対応を従来以上に効果的・効率的に行い、県民のニーズに応えることが第一であるが、例えば、統廃合により廃校となった小学校の校舎(恩納村、今帰仁村など)の利活用も視野に入れてもよいのではないか。

#### b. WUB ネットワーク等との連携

ウチナーネットワークの中心は、沖縄以外にもある。例えば WUB ネットワークはハワイを中心に、世界のウチナーンチュと繋がっており、沖縄はその支部の一つである。

ネットワークは概して中心が一つであるが、ネットワークは、中心が複数存在する。ノット(結び目:団体)は、流動的に結びつく柔軟さに特徴がある。個人の主体性がより重んじられ、ネットワークが軽く、社会情勢にも敏感に反応できるのである。セキュリティ上、サーバーを各地に分散して設置するのと同様、中心となるノットが幾つもあると、より安定した強靱なウチナーネットワークを築けるのではないだろうか。

沖縄には各国県人会の情報が集まるが、「各国の県人会がどのような活動をしているのか、各国の県人会で協力し沖縄に還元できる活動がないか」<sup>35</sup>を切望する世界のウチナーンチュは多い。WUB ネットワークのような海外のノットの存在の団体に対して県が積極的に繋がること、ノットの存在の国内外の諸団体を県が支援することが必要であろう。

#### c. 県庁内の横の連携の強化

沖縄県が実施(委託)したウチナーネットワークに関連する諸事業は、単年度型での実施や所管部のみで計画・実施されるケースが多く、関連事業を総合的、俯瞰的に把握している職員がいないのが実情である。職員の配置換え等にも影響されないような、組織としての情報・知見・経験の蓄積(インスティテューショナル・メモリー)が極めて重要である。そのためにも、各事業の報告書の管理、関連部課との情報共有を積極的に進めるべきである。特に、過去の貴重な情報は電子化し、アーカイブに残すとともに、インターネット上で公開し、海外からもアクセスできるような仕組み作りを提案したい。これにより、県庁の中での横の連携(情報交換)も促進され、効率的に行うことができるだけでなく、県民に対するサービス向上にも資する。できることから着手し(過去のウチナーネットワーク事業の報告書の電子化等)、取り組んでいる状況が県民に見えることも、前述の“当事者”意識を高める観点からも重要である。

## IV. おわりに

<sup>35</sup> 2015年9月アンケート結果より(海外県人会-上海からの意見)

2021年度、現行の沖縄振興計画は終了し、次の展開が2022年度から開始する。海外ウチナーネットワークの継承と発展は、今後10年の沖縄の発展にも大きな影響力が見込まれるため重要課題の一つである。人的ネットワークの先に求める経済的発展として何を指すのか。21世紀ビジョンには共生の島の理念などが盛り込まれており、貧富の差を広げるのではなく、もう少し「優しい」資本主義の在り方として、社会貢献にもつながる「ネットワーク」の活用が求められるべきではないか。これは、沖縄県のSDGs推進の取組にも位置付けていくことが可能であろう。



## 2 各課題ごとの属性の傾向

### (1) 沖縄の文化継承に関する活動のこれまでの実施状況について (課題①関連)

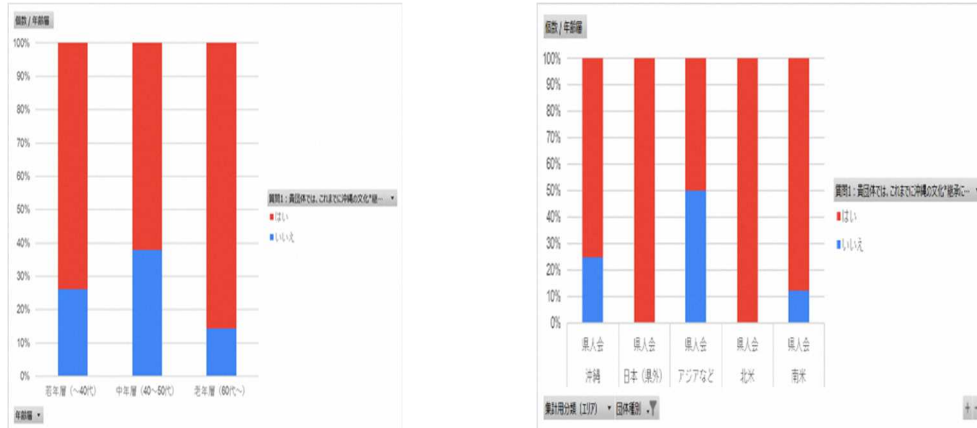


図1：沖縄文化継承の活動 (左)世代別、(右)県人会・地域別

### (2) 世界のウチナンチュに関するイベント・活動実施状況について (課題②関連)

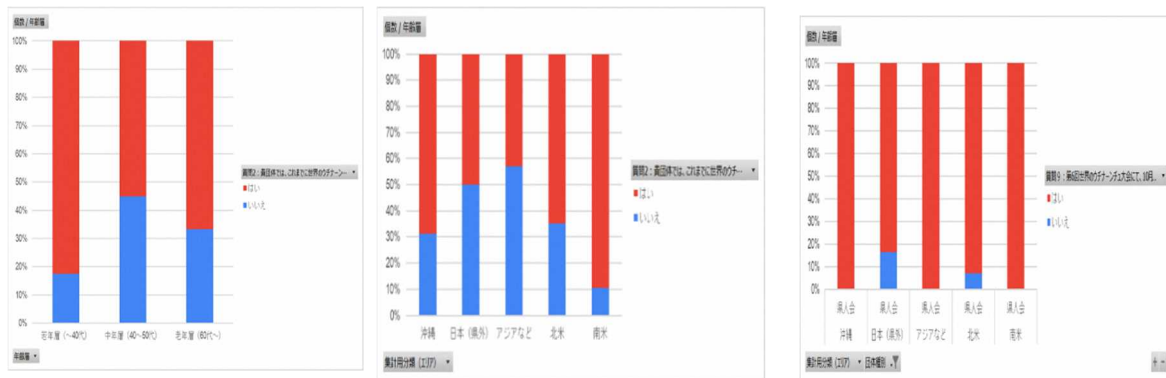


図2：世界のウチナンチュに関するイベント活動実施状況 (左)世代別、(中)地域別、(右)県人会・地域別

### (3) 海外のウチナンチュとの事業・ビジネス経験について (課題③関連)

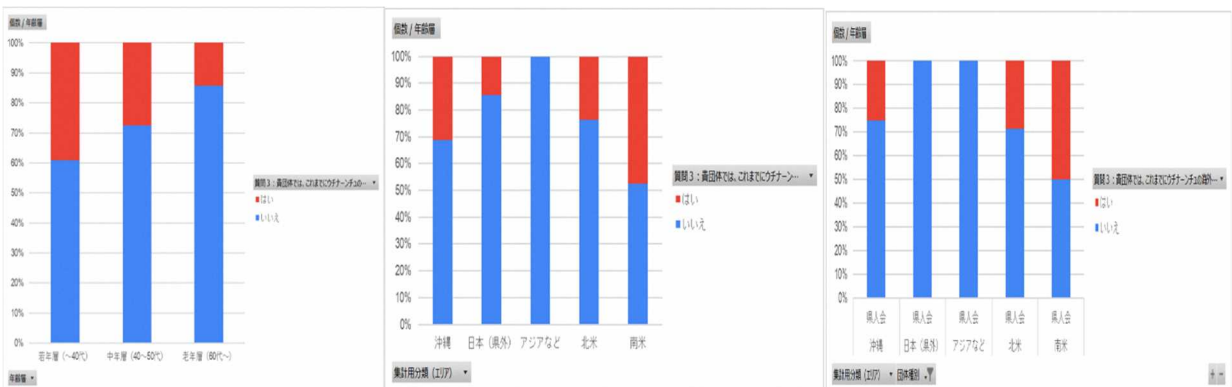


図3：海外のウチナンチュとの事業・ビジネス経験 (左)世代別、(中)地域別、(右)県人会・地域別

(4)世界のウチナンチュの拠点として必要な機能について(課題④関連)

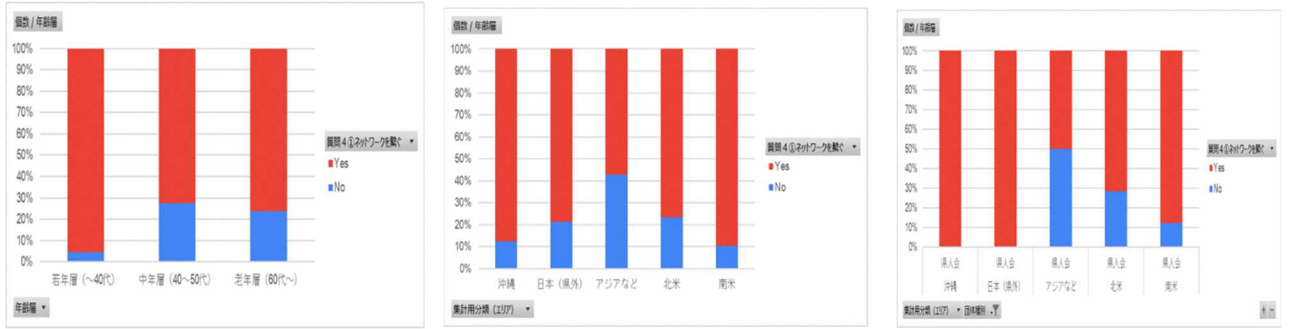


図4-1:県内拠点に人的ネットワークを繋ぐ機能を要望 (左)世代別、(中)地域別、(右)県人会・地域別

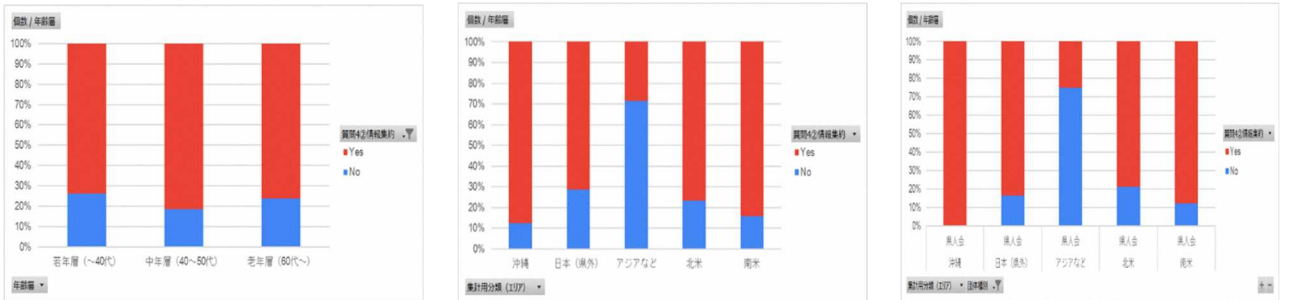


図4-2:県内拠点に情報の集約と発信の機能を要望 (左)世代別、(中)地域別、(右)県人会・地域別

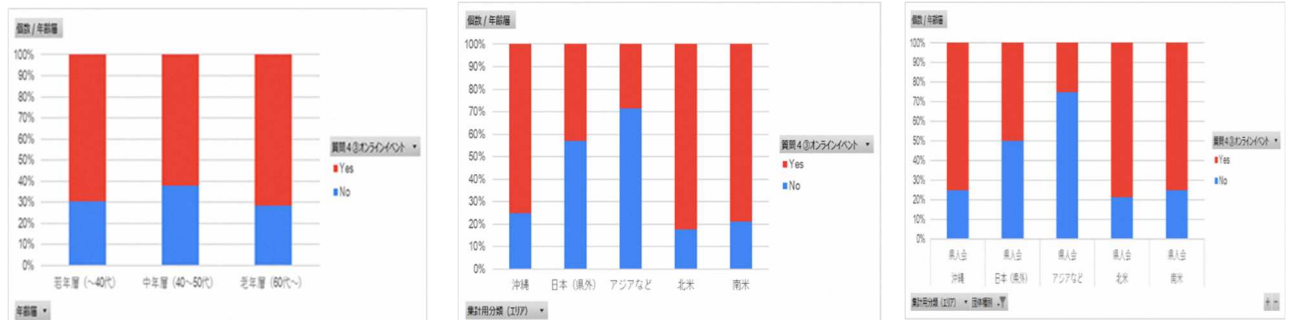


図4-3:県内拠点にオンラインイベント実施機能を要望 (左)世代別、(中)地域別、(右)県人会・地域別

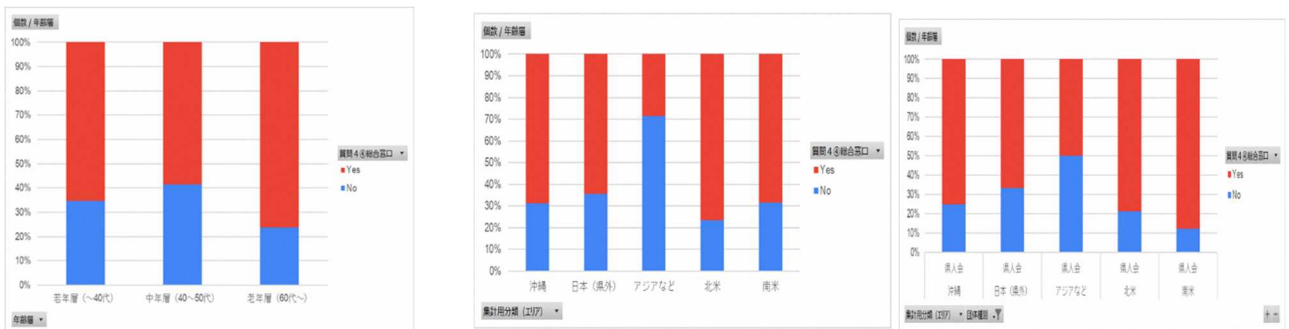


図4-4:県内拠点に交流の総合的窓口機能を要望 (左)世代別、(中)地域別、(右)県人会・地域別

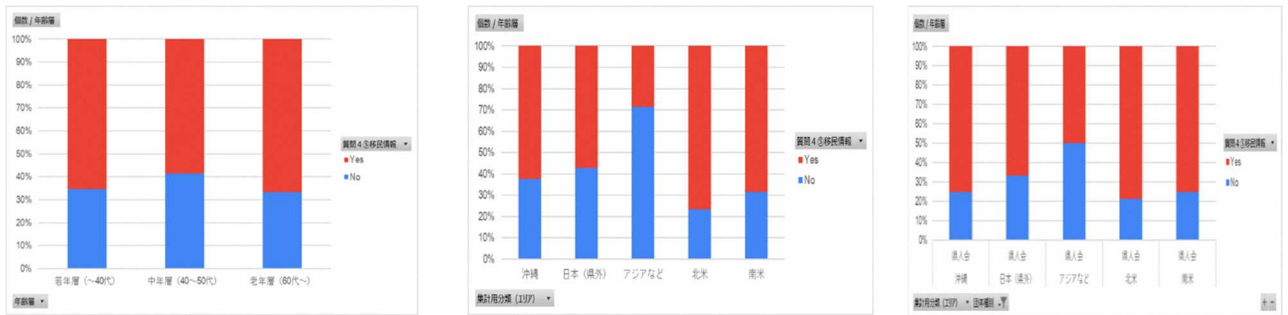


図4-5:県内拠点に移民歴史資料の情報収集機能を要望 (左)世代別、(中)地域別、(右)県人会・地域別

(5) 沖縄経済の自立的発展に向けたウチナーネットワークの寄与について(課題③関連)

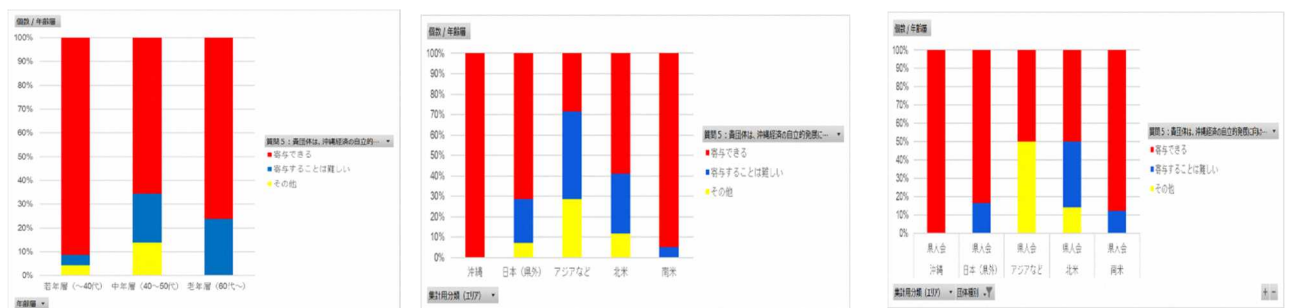


図5:貴団体は沖縄経済の自立的発展に向けてウチナーネットワークが寄与できるか (左)世代別、(中)地域別、(右)県人会・地域別

3 その他質問に関する自由記述の図式化

(1) 本会議へ期待することについて

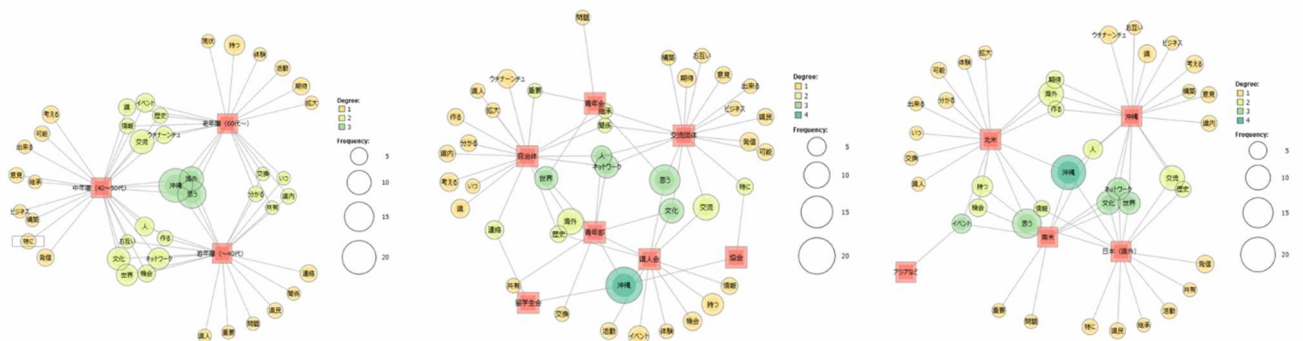


図6: 貴団体がこの『海外ネットワークに関する万国津梁会議』に期待すること(左:世代別、中:組織別、右:地域別;n=46)



(2)第7回世界のウチナーンチュ大会の開催について

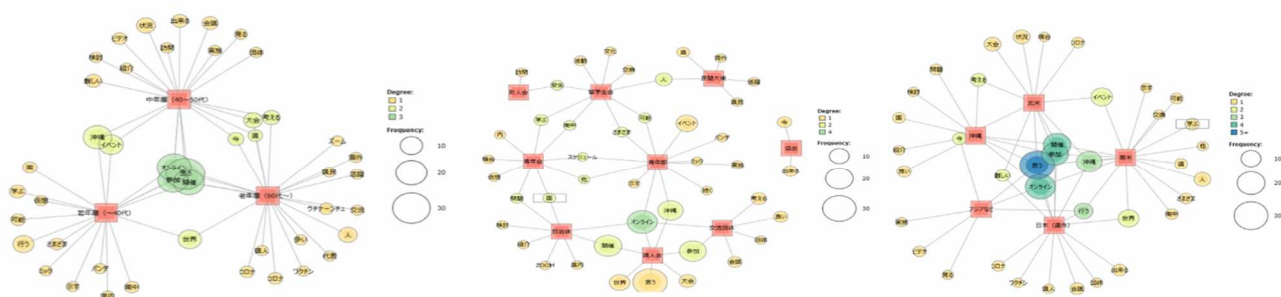


図7： 第7回世界のウチナーンチュ大会の開催形式について(左:世代別、中:組織別、右:地域別;n=62)

○略語一覧

「HP」 Home Page ホームページ

「JICA」 Japan International Cooperation Agency 独立行政法人国際協力機構

「JOCA」 Japan Overseas Cooperative Association 公益財団法人青年海外協力協会

「SDGs」 Sustainable Development Goals 持続可能な開発目標

「SNS」 Social Network Service ソーシャルネットワークサービス

「UNC」 Uchinā Network Concierge ウチナーネットワークコンシェルジュ(沖縄県が実施するウチナーネットワーク総合窓口事業の通称)

「URL」 Uniform Resource Locator ユーアールエル(インターネット上の住所)

「Web」 World Wide Web ウェブ

「WUN」 Wourdwide Uchinā Network ワールドウチナーネットワーク

「WUB」 Worldwide Uchinanchu Business network ワールドワイドウチナーンチュビジネスネットワーク

「WYUA」 World Youth Uchinanchu Association 一般社団法人世界若者ウチナーンチュ連合会

○アンケートにご協力いただいたウチナーネットワーク団体(URLの掲載承認を得られた団体一覧)

1 Okinawa Kai of Washington D.C. <https://okinawakai.org/>

2 宜野湾市国際交流協会 <http://gifea.jp>

3 在台湾沖縄県人会 <https://www.okitw-kenjin.com>

(その他関連サイト)

<https://www.okitwkenjin.com/post/%E5%9C%A8%E5%8F%B0%E6%B9%BE%E6%B2%96%E7%B8%84%E7%9C%8C%E4%BA%BA%E4%BC%9A%E9%81%A0%E8%B6%B3-vol-1>

<https://www.nihaowohao.net/okinawa-night-html>

- 4 NPO 法人沖縄 NGO センター <https://www.oki-ngo.org/>
- 5 Azama Honryu Seifu Ichisenkai Kinuko Mototake Dance Academy (安座間本流清風一扇会本竹絹子琉舞研究所)  
(活動動画)<https://www.youtube.com/watch?v=GBAE3y6FGcU>  
(活動動画)[youtube.com/results?search\\_query=kinuko+mototake](https://www.youtube.com/results?search_query=kinuko+mototake)  
(活動記事:在サンフランシスコ日本国総領事館)[https://www.sf.us.emb-japan.go.jp/itpr\\_en/pr\\_16\\_0627b.html](https://www.sf.us.emb-japan.go.jp/itpr_en/pr_16_0627b.html)
- 6 宜野座村役場 <http://www.vill.ginoza.okinawa.jp/>
- 7 サンフランシスコ沖縄県人会 <https://www.sfokk.org/>  
(関連サイト)  
<https://www.sfokk.org/>  
<https://sfcherryblossom.org/history/nccbf2019/2019-performer-profiles/>
- 8 沖縄県立図書館 <https://www.library.pref.okinawa.jp/>  
(移民一世代ルーツ調査・相談(レファレンス)サービス:1st Generation Immigration Genealogical Reference Service)  
<https://www.library.pref.okinawa.jp/about-okinawa/cat1/post-12.html>  
(企画展示「ポリビアに生きる一日系社会の中のウチナーンチュ」)  
<https://www.library.pref.okinawa.jp/notice/post-44.html>
- 9 JICA 沖縄 <https://www.jica.go.jp/okinawa/>  
(アルゼンチン研修員の声)  
[https://www.jica.go.jp/okinawa/enterprise/kenshu/hitokoto/ku57pq00000d8f6g-att/voice\\_20.pdf](https://www.jica.go.jp/okinawa/enterprise/kenshu/hitokoto/ku57pq00000d8f6g-att/voice_20.pdf)  
(ポリビア研修員の声)  
[https://www.jica.go.jp/okinawa/enterprise/kenshu/hitokoto/ku57pq00000d8f6g-att/voice\\_35.pdf](https://www.jica.go.jp/okinawa/enterprise/kenshu/hitokoto/ku57pq00000d8f6g-att/voice_35.pdf)  
(ペルー研修員の声)  
[https://www.jica.go.jp/okinawa/enterprise/kenshu/hitokoto/ku57pq00000d8f6g-att/voice\\_29.pdf](https://www.jica.go.jp/okinawa/enterprise/kenshu/hitokoto/ku57pq00000d8f6g-att/voice_29.pdf)  
(ブラジル研修員の声)  
[https://www.jica.go.jp/okinawa/enterprise/kenshu/hitokoto/ku57pq00000d8f6g-att/voice\\_32.pdf](https://www.jica.go.jp/okinawa/enterprise/kenshu/hitokoto/ku57pq00000d8f6g-att/voice_32.pdf)  
(企画展示「ポリビアに生きる - 日系社会の中のウチナーンチュ」)  
[https://www.jica.go.jp/okinawa/topics/2020/20201006\\_11.html](https://www.jica.go.jp/okinawa/topics/2020/20201006_11.html)  
(中南米日系社会ビジネスセミナー「日系社会におけるビジネスの可能性を探る」)  
[https://www.jica.go.jp/okinawa/topics/2020/20201016\\_11.html](https://www.jica.go.jp/okinawa/topics/2020/20201016_11.html)  
(セミナー「～県系移民住居地“コロニア・オキナワ”を知ろう～」)

[https://www.jica.go.jp/okinawa/topics/2020/20201015\\_11.html](https://www.jica.go.jp/okinawa/topics/2020/20201015_11.html)

(帰国協力隊員の報告(ブラジル))

<https://www.jica.go.jp/okinawa/enterprise/volunteer/taiken/kikoku/h21/bra01.html>

(日系社会海外協力隊の実績)

<https://www.jica.go.jp/okinawa/enterprise/volunteer/taiken/index.html>

10 ラスベガス沖縄県人会 <https://lvokinawa.jimdofree.com/>

(facebook)Lasvegasokinawa Kenjinkai\_

11 在亜沖縄県人連合会 <https://www.okiren.org.ar/>

12 沖縄 欧州文化連合会 <http://greenh.jp/okinawaculturefj/index-France.html>

(facebook)[www.facebook.com/clubdesanshin](http://www.facebook.com/clubdesanshin)

(パリ三線クラブ)[https://www.youtube.com/watch?v=gfED2kbDP\\_s](https://www.youtube.com/watch?v=gfED2kbDP_s)

(沖縄民謡で踊るアルゼンチンタンゴ)

<https://www.youtube.com/watch?v=ns0oemtuchE>

(パリで流行 アルゼンチンタンゴ指導者アランさん来沖へ)

<https://www.okinawatimes.co.jp/articles/-/58561>

13 浦添市国際交流協会 <https://okinawauira.wixsite.com/uira>

14 ユタ州沖縄県人会 <https://www.okinawautah.com/ja/>

(関連サイト)<https://www.nihonmatsuri.com/copy-of-home>

15 ヒスパニック文化センター <https://youtu.be/9GP2yeRdsFg>

16 大阪沖縄県人会連合会 <https://www.facebook.com/watch/osaka.okinawa>

17 レキオウイングス <https://lequiowings.org/>

(2019年度 日系研修「沖縄ルーツの再認識を通して学ぶソフトパワー活用と地域活性」)

<https://lequiowings.org/2019%E5%B9%B4%E5%BA%A6-%E6%97%A5%E7%B3%BB%E7%A0%94%E4%BF%AE%E3%80%8C%E6%B2%96%E7%B8%84%E3%83%AB%E3%83%BC%E3%83%84%E3%81%AE%E5%86%8D%E8%AA%8D%E8%AD%98%E3%82%92%E9%80%9A%E3%81%97%E3%81%A6%E5%AD%A6/>

(第5回世界ウチナーンチュ学生サミット)

<https://lequiowings.org/%E7%AC%AC%E5%9B%9E%E4%B8%96%E7%95%8C%E3%82%A6%E3%83%81%E3%83%8A%E3%83%BC%E3%83%B3%E3%83%81%E3%83%A5%E5%AD%A6%E7%94%9F%E3%82%B5%E3%83%9F%E3%83%83%E3%83%88%E3%81%8C%E9%96%8B%E5%82%AC%E3%81%95-2/>

18 カンポグランデ沖縄県人会 <https://wun.jp/wun/associations/associacao-okinawa-de-campo-grande>

(facebook)

<https://m.facebook.com/login.php?next=https%3A%2F%2Fm.facebook.com%2Fokinawacgms%2F&refsrc=http%3A%2F%2Fwww.google.co.jp%2Furl&rdr>

19 一般財団法人 兵庫沖縄協会(沖縄県人会兵庫県本部) <http://hyogo-okinawa.jp/>

20 WUB 沖縄 <https://www.wubokinawa.com/>

21 Calgary Okinawan Club <https://calgaryokinawanclub.wixsite.com/club>

22 オハイオ州沖縄友の会 <https://youtu.be/Xscy66hw1Vw>

23 Atlanta Okinawa Kenjin Kai <http://www.atlantaokk.org/>

(関連サイト)[atlantaokk.org/events](http://atlantaokk.org/events)

24 Okinawa Karate and Kobudo Federation of Russia

(関連サイト)<http://okinawakarate.ru/>

(関連サイト)<http://okinawakarate.ru/novosti/festival-sakura-2019>

(関連サイト)<http://okinawakarate.ru/novosti/mezhdunarodnyy-seminar-pokarate-s-legendarnymi-masterami-v-moskve>

25 Houston Okinawa Kenjinkai

(関連サイト)<https://mail.google.com/mail/u/1/?hl=en#inbox>

(関連サイト)<https://mail.google.com/mail/u/1/?hl=en#inbox?projector=1>

26 Yonabaru Chojinkai del Perú

(関連サイト)<https://www.youtube.com/watch?v=dMKDtckBiW0>

(関連サイト)

<https://www.facebook.com/AOPPERU/photos/a.10154843913540319/10154843913945319/>

27 Kimutaka

(facebook)

<https://www.facebook.com/kimutakaperu/photos/1015800722215681>

(活動動画)<https://www.youtube.com/watch?v=UMhAQyM4NO4>

(活動動画)<https://www.facebook.com/kimutakaperu>

28 COOPERATIVA DE AHORRO Y CRÉDITO AOPCOOP.

<http://www.aopcoop.com.pe>

29 Okiryukai <https://okiryukai.wordpress.com/>

30 Centro okinawense en la Argentina

(関連サイト)

<https://www.facebook.com/centrookinawenseenlaargentina/photos/pcb.3508104459263547/3508079819266011/>